

年間テーマ：上杉家歴代の文書管理と歴史編纂

期間テーマ：景勝をめぐる記録の編纂 4月26日（水）～5月23日（火）

資料名	頁数	法量 (cm)	時代	番号	所蔵
国宝 狩野永徳 (5月21日までは原本、以降は複製) 上杉本洛中洛外図屏風	六曲一双	各160.4×365.2	室町～桃山 (16世紀)		上杉博物館
国宝 上杉家文書 (赤筆笥乾六之段夕印) 1 小嶋職鎮宛 上杉景勝書状	1通	35.0×34.8	天正6年 (1578) 3月24日	948	上杉博物館
国宝 上杉家文書 (赤筆笥乾六之段夕印) 2 蘆名盛隆宛 上杉景勝書状	1通	32.9×32.3	天正6年 (1578) 4月3日	947	上杉博物館
上杉文書 3 「景勝公御年譜」 草稿	3冊	28.9×19.6	元禄10～15年 (1697～1702) 頃	53	上杉博物館
上杉文書 4 「編年上杉家記稿 二十五」	1冊	23.4×16.0	明治30～40年代	45	上杉博物館

上杉文華館では、国宝上杉本洛中洛外図屏風（原本または複製）とともに、「上杉家文書」を毎月入れ替えながら常時展示しています。上杉家文書は、江戸時代以降に行われた文書の管理や歴史編纂を通じて、中世以来の上杉家の由緒や権威、特定の当主の事績を示す文書が収集、選別され、移動や変化を続けながら、現在の構成（2018通、4帖、26冊、保存容器として両掛入文書箱、精撰古案両掛入文書箱、黒塗掛硯箱、赤筆笥 乾・坤2棹、附として歴代年譜325冊）になったことが明らかになっています。

また、「上杉家文書」とは別に「上杉文書」と呼ばれる藩政文書を中心とした1万点弱の史料群があり、米沢市では令和3年度から文化庁の「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の補助を受け、調査に取り組んでいます。その中核は文書管理や歴史編纂を担った、江戸時代の御記録方や、近代の上杉家記録編纂所総裁伊佐早謙の関連文書です。上杉文書には、国宝「上杉家文書」を深く理解するための手がかりが、豊富に含まれています。

今年度は本調査事業の成果を活用して2つの史料群を紐解きながら、江戸時代から近代にかけて、文書の具体的な管理方法と歴史や記録の編纂事業、その背景にある藩政の状況や世情をご紹介します。永年にわたり文書を守り伝え、活用してきた人々の営為にご注目下さい。

〔景勝をめぐる記録の編纂〕

今回は、天正6年（1578）3月、謙信が不慮の死を遂げた後、景勝（長尾政景の次男、母は謙信の姉）と景虎（小田原・北条氏政の実弟）による後継争い「御館の乱」に関する書状と、後年の編纂物をご紹介します。

景勝に関する記録編纂の例として、早くは寛永16年（1639）に家臣に謙信・景勝の御書・感状を提出させ、「古案集」が編纂されました（上杉家文書に伝来）。元禄9年（1696）には、米沢藩の儒学者矢尾板三印が景勝の年譜編纂にあたり、同16年に完成させます。その前段階では、藩が家臣や領民に所蔵文書の差し出しを命じ、元禄4年（1691）と同9年に古文書集「御書集」が編纂されました（上杉文書に伝来）。この他、江戸時代の景勝に関する記録として、上級藩士平林恒広がまとめた謙信・景勝・定勝の伝記「三公外史」、物語調の伝記「景勝公一代略記」、家格と儀礼などの先例集である「定例亀鑑」、国分家が手がけた上杉家歴代の年譜「大政録」などが編纂され、上杉文書に伝来しています。

近代には、伊佐早謙が明治17年（1884）に「奥羽編年史料」の編纂に着手します。明治21年からは上杉家の命で幕末の藩主上杉齊憲の年譜編纂にあたり、同30年に草稿を完成すると、さらに対象範囲を広げ「御家旧歴史編纂」を命じられました（「歴代年譜 茂憲公」）。国宝「上杉家文書」の包紙の一部には、伊佐早がその文書の機能や内容、作成者、年代、時には真贋や考察を記したメモが付され、上杉家文書に新たに文書を追加した例（資料1）も確認されます。